



木下会長

木下会長は、「海外製容器なので当然、円安の影響を受けているが、特殊な形状の容器は代替が効かないため、影響は軽微にとどまっている」と話し、こう続けた。

「今年は行動制限が緩和されてポストコロナの時代を迎えつつあり、来年はコロナを言い訳にできなくなる。コロナ禍の長期化で海外に行けない中、オンラインミーティングなどで対応してきたが、この2年の間に連携している海外容器メーカーの技術開発はさらに進

歩している。徐々に海外出張を再開して関係強化を図り、さらなる品質向上につなげていく。併行して、ベトナムやインド

ネシアなど東南アジアの容器メーカーとの連携も図っていきたい」

製品施策では、ユニバーサルデザインを取り入れた容器とともに環境対応容器のラインナップを拡充している。新たにバ

ンブー(竹)素材や石灰石を用いたエコ素材シリーズなども取り扱い、紹介を開始した。中国市場でも人気のバンブー素材は、ジャー容器からコン

パクト、リップ・グロスなど幅広くラインナップしている。バンブー素材のキャップとガラスなど他の環境対応容器との組

み合わせも可能だ。

「内需の回復が遅れていることもあって、環境対応容器を採用する企業はまだ少数だが、今後の需要拡大に備え、様々な環境対応ニーズに対応できる容器を品揃えしていく」(木下会長)